

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第6回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- ① 地域活動支援事業の課題等の洗い出し
- ② 自主的審議について

3 開催日時

令和2年10月15日（木）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、高橋清司（副会長）、田中利夫、塚田春枝、樋口里美、日向こずえ（副会長）、松山公昭（3人欠席）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：田中委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の課題等の洗い出し」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1 に基づき説明

【青木会長】

今の説明に質疑を求める。

【塚田委員】

反省についてである。12位の「士-11 男の料理教室開催事業」だが、附帯意見を付けるべきだったのではないかと少し反省している。申し訳ないのだが、やはり上位との点差もかなりあるため、そのような意味でも附帯意見を付けたほうがよかったのではないかと考えている。このような意見でよいか。

【青木会長】

大丈夫である。

【松山委員】

本日の進め方がよく分からないので、全体の進め方をもう少し分かりやすく説明してほしい。

【青木会長】

先ほど事務局より説明があったように、高土区地域協議会にて地域活動支援事業の追加募集分を含めた13件の審査・採択が終了した。今ほど内容的なものの発言もあったが、進め方等に問題はなかったか、課題の洗い出しを行っておきたいということである。

【山崎主事】

本日の協議会で予定している内容としては、「地域活動支援事業の課題等の洗い出し」で約20分、「自主的審議について」で、2つのグループに分かれての意見交換が約30分、最後に全体での情報共有を約20分で行いたいと思っている。そのため、議題全体で約75分を予定している。

【青木会長】

改めて、地域活動支援事業の振り返りについて意見等求める。

【松山委員】

今年度は当初募集にて12件、追加募集で1件の提案がされている。現在行っている事業、今後予定している事業等、今一度簡単に説明してほしい。例えば、「士-9」の作品展はこれから始まるが、これまでにどのようなことをしてきたのかが分からない。また「士-12」のキャンドルイベントは2月の事業であるが、要するに、通年でやっている事業なのか、これから行う事業か分かれば教えてほしい。

【青木会長】

事務局より補足願う。

【本間センター長】

時間もないため、簡単に説明する。

現在、当初募集で提案のあった12事業については、補助金交付申請がすべて終わっている状態である。

順位の1位であった「士-12」の雪まつりは、これからの事業である。

次に「士-10」の雄志太鼓は、すでに太鼓は購入したのだが、なかなか活動の場がないとの悩みを持っている。

【上野委員】

「士-4」ニュースポーツと「士-9」作品展、「士-5」防災活動については、自分が説明する。

「士-4」ニュースポーツは、すでに競技用品を購入した。事業の中で小学校のクラブ活動協力があるのだが、9月24日にニュースポーツの体験を行った。また3月には、高士地区のニュースポーツ大会を予定している。

次に「士-9」の高士地区作品展であるが、本日より開催している。そのためにパネルを購入した。団体が7団体、個人が1人、作品数は175点出品されている。これから追加で持ってくる人もいるかもしれない。

次に「士-5」の防災活動についてである。これについても防災用品をすでに購入している。コロナ禍で地区の防災訓練はできなかったのだが、10月26日に各町内会長と団体長を集め、防災用品の取扱要領の確認等を行う予定である。

【山崎主事】

残りの事業についてである。

「士-1」ひとふさの会の見守り活動事業については、すでに行われている。

「士-7」のぼり旗設置事業は、すでに完了している。

「士-2」地区だより「たかし」はすでに毎月発行されている。

「士-8」だんとうの大杉は、活動中である。

「士-3」お買い物ツアーもすでに実施されている。

「士-13」カーブミラー設置についても予定では設置済みと聞いている。

「士-11」の男の料理教室については、ちょうど今月より始まる頃かと思う。

最後に、追加募集分の「士-追1」の元気花火は2月の実施である。

【青木会長】

では課題の洗い出しに戻る。提案状況については当初募集で12件、追加募集で1件の提案があり、全て申請どおりに採択され、すでに進行中の事業もある。次年度に向けて、改善点や問題点等あるか。

【松山委員】

提案状況について、毎年同じ事業が提案されていると思う。中には今年からのものもあるが、今後も同じことをやっていく可能性はある。良し悪しはあるが、それでは何か先に進まないため、新しいものを出してもらえるような工夫が必要だと思う。そのためには任期の4年間で、2年ずつのクールで考えて、最初の2年間はこのようにやって、次の2年間はこのようにやる、というように考えたほうがよいのではないかと思う。今年もそうであるが、内容の小さなところを変えたとしても、根本的なものが変わらなければ、同じことをずっとやっていくようになってしまう。今年度の事業を見ても、あまり新しいものはないと思う。

【日向副会長】

今ほどの松山委員の発言にもあったように、自分は4年間地域協議会委員をしてきたが、4年間同じ採択事業がある。今協議している内容は、今回の地域活動支援事業のヒアリングや採点方法等、任期1年目でどう感じたのかについて洗い出しをするということである。よかったのか、逆に悪かったのか、自分が前期4年間審査をしてきて、今回気付いたこととしては、やはり採点票の様式が分かりにくかったのではないかと考えている。そういった些細なことで全然構わないと思うため、各自の感想を述べてほしい。松山委員の発言にもあったように、例えば来年に同じ事業が提案されても認めるが、その次の年度の継続は認めないとしてもよいと思う。それは高士区地域協議会の中の決め事としてもよいと思う。些細なことでもよいと思うため、感想を述べていた

だけたらと思う。

【松山委員】

他の地区ではどのようなことをやっているかは全然分からない。年度末ぐらいに分かるのか。

【日向副会長】

事例集が配布されている。

【松山委員】

前年度分は配布されているが、今年度分は配布されていない。どこの地区でどのような事業を行っているといったことが、なかなか見えてこない。

前年度と同じ事業はよいが、今年度からの新しい事業は内容が分からない。他の地区は他の地区、うちはうちということも当然あるが、横並びにもものを見ていってもよいかと思う。

【青木会長】

事務局より補足願う。

【本間センター長】

松山委員の発言のとおり、年度が終わって初めて実績報告等をまとめた冊子として委員に示すことができる状態である。ただ、この段階で各区の提案状況をホームページに公表しているはずなので、どこを見ればよいかについては確認する。

【松山委員】

市のホームページに各区の会議録や資料等が掲載されているため、それを見て判断したりしている。当区の会議録は大体1か月遅れで掲載されているが、他の区はもっと早く掲載されている。ただ、会議録は見ているため、他区の状況は大体分かっている。

【青木会長】

新任委員にはよく理解できないところもあるかもしれないが、地域活動支援事業は地区の活性化という目的でいろいろな事業等に深く入り込んでいる。この支援事業なしには、なかなか活発に活動できないような状態になってきているのが実態かと思う。地域活動支援事業がなくなった際には、どうするのかという心配は非常に大きい。今後、そういった心配はしていかなければならないと思う。貴重な税金を使っているため、その考えを基に有効に活用していくべきだと思う。自分の今まで4年間の委員経験の中では、例えば体育大会や祭り等は、補助金で新たなものを取り入れる等、工夫し

て活動してきている。今後、地域活動支援事業がなくなった際のこと大いに考えていかなければいけないと思っている。

他に意見等あるか。今回の審査については、まず提案書を確認し、ヒアリングの後、特定事業を決定した。その後、採点を行い、採択事業の決定を行うといった流れで審査を行った。今後もこの流れでよいか否かについて、改善点等、発言を求める。

【高橋副会長】

事業の流れではないのだが、他の委員がどのような感じ方をしているのか、1点確認したい。採点票の項目の中で、「公益性」「必要性」「実現性」「参加性」「発展性」とあるが、自分が各事業に対して引っかかっていたことが、「公益性」の中の「補助金を充てて購入した物品や修繕した施設等が、長く地域で活用される見込みがあるか」という内容である。この内容については、これに見合った事業もあれば、全くそれに該当しないと思える事業もあるのではないかと受け止めていた。そのために極端に点数が下がってしまった事業もある。その辺を各自どのように受け止めていたのか確認したい。自分の受け止め方が、違うのかとも思っているため、意見を聞き、参考にしたいと思っている。

【青木会長】

今ほど高橋副会長より指摘があったが、他にも同じような感覚を持った委員がいると思う。「公益性」に限らず、自分も相対的な判断という感じで審査しているところもある。深く考えるとそういうところも実際にはあった。他に意見等あるか。

【上野委員】

今程の高橋副会長の発言について、自分も考えるところがある。やはり購入した備品等が地域に残っていけば、これは「公益性」になるのではないかと考えている。これはなくなるものではない。ただし、こう言ってはいけないと思うのだが「男の料理教室」等は、自分たちが楽しむために講師を派遣するものであり、形としては残らない。心の涵養^{かんよう}等には十分繋がるのだが、やはり難しいところではないかと感じた。具体的に言ってしまい申し訳なかったのだが、やはり作品展でパネルを購入する、防災で防災用品を整える、体育協会で競技用品を整えるということは残っていくものである。そういうところを自分は「公益性」だと考えている。

【青木会長】

他に意見等あるか。

【松山委員】

採点項目については、市で示されたものであるため、それをこちらがどのように判断するかだけである。自分は「公益性」というものについては、「備品が残る」というよりも、あらゆる人たちが参加できるようなものを「公益性」だと思っていた。そのため、残る・残らないというよりも、積極的に参加されるようなものと捉えて自分は採点した。例えば地区体育大会や高齢者の事業等、高士地区で長年行っているものがある。そういった歴史的に作られたものは「公益性」だと思っている。当然、税金を使うため、「公益性」を一番に重視することが当たり前である。たくさんの方々が「参加」ではなく、「参画」できるようなものを目指していければよいと思った。

【青木会長】

いろいろな意見が出たが、他に意見等なければ、次に進んでよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の課題等の洗い出し」を終了する。

次に次第 2 議題「(1) 協議事項」の「② 自主的審議について」に入る。前回の協議会では、高士区の人口データや前期委員の活動概要について事務局より説明があった。自主的審議としては、今後高士区のテーマを決めて協議を行うわけだが、本日は高士区にはどんな課題があるのか、どんなよい所があるのかを考えるために、意見交換を行う。そこで自主的審議の今後の流れや、本日の意見交換の進め方について事務局に説明を求める。

【山崎主事】

自主的審議の説明に入る前に、前回の協議会にて松山委員より質問のあった、保育園や小学校の今後の成り行きや児童数の推移について本間センター長より説明する。

【本間センター長】

自主的審議に先立ち、前回松山委員より依頼のあった、高士小学校の児童数の推移、複式学級が今後どうなるのか、また保育園や小学校の統廃合について説明する。いずれの内容についても、自分からは数値と大まかな市の方針について説明をするため、さらに詳細に聞きたいとの委員の総意があれば、改めて担当課より説明する機会を作りたいと思う。では最初に小学校について説明する。まず児童数の推移である。令和2年度は全校児童 51 人となっている。合併時の平成 17 年度は 82 人であったため、31 人

減少している。6年後の令和8年度には、4人減少する見込みとなっている。次に小学校の規模についてである。上越市にある小学校全体を小規模・適正規模に分けた際、高士小学校がどこに該当するかということであるが、「複式学級が複数存在」との区分になっている。次に学校に対する市の共通の考え方について説明する。学校では新しい新学習指導要領による学びが始まっており、教科等の知識や技能の習得だけではなく、児童生徒が集団で多様な考え方を認めて協力し合い、切磋琢磨することにより、思考力や表現力、問題解決能力等を育むことが、今まで以上に大切になる。そのためには、少なくとも1学年1学級以上、複式学級が生じない規模の学習集団を確保する必要があり、教育委員会では全市的にその実現に取り組んでいる。この考えに基づいて、これまで教育委員会で2回ほど高士小学校の保護者と話合いの場を持ったと聞いている。次に、保育園について説明する。保育園では、保育ニーズに対応した、より質の高い保育サービスの提供と今後の保育サービスや子育て施策に対する財源の確保の実現に向けて、公立保育園の民営化と統合・再編を再配置の2本柱として取り組んでいる。今回示している第3期の再配置計画の中に、高士保育園の具体的な方向性は示されていない。高士保育園を含め、今回対象となっていない園については、適時、施設の修繕等を通じて、現在の園舎で安全に保育できる環境を確保しつつ、地域の状況を踏まえて柔軟に対応していくこととしている。従って、高士保育園はまだ方針が決まっていない状況である。今後の自主的審議の参考にしてほしい。

【山崎主事】

- ・資料2、「自主的審議のテーマ検討のヒント」に基づき説明。

【松山委員】

始める前に確認したい。前期の協議会では自主的審議でどのようなテーマが選ばれたのか。それはどこかに出ているのか。

【山崎主事】

前回の協議会の資料2に記載しており、前期委員の活動概要の中で説明した。

【松山委員】

どういったテーマであったか。

【山崎主事】

「人口減少の抑制」である。空き家の調査等を行った。

他に質問等がなければ、2つのグループに分かれて意見交換を始めてほしい。

— グループワーク（30分） —

【青木会長】

全体会を再開する。それぞれの班で話したことを発表し、共有したいと思う。

最初に1班より発表願う。

【上野委員】

1班の発表を行う。

まず「今困っていること」の大多数は、少子高齢化と空き家対策である。また「高士から外に出ていく若い転出者が多い」という意見があった。

次に「今後心配していること」として、「地域の核となる人材の確保」や「後継者の育成」といった意見もあった。

「好きなところ」については「四季に富んでおり癒される」ということである。

「自慢したいところ」はいろいろあるのだが、大きくは「振興協議会を中心とした地域団体等の協力」を上げている。

これらをまとめて考えると、異業種の活動や話し合える場づくりをしたほうがよいのではないかと考えた。高士地区には酒屋や大工、屋根屋等があり、様々な業種の人がいる。その年代の人たちが活動したり話し合える場として、商工会的なものを作ってはどうかとの意見があった。最後に、そのためには「高士区の魅力は何か」というところを話し合ったが、今のところ見い出せていない。

【青木会長】

次に2班より発表願う。

【松山委員】

2班の発表を行う。1班と同様の意見も多かったため、なるべく意見が被らないように発表したいと思う。

まず、「困っていること」については、高齢化との意見は出なかったのだが、少子化により子どもが少ないため、人が増えないということ。

次に、新型コロナウイルスの影響で今年度は特別なのもかもしれないが、今後もその影響により、世代間の関わりがだんだんと少なくなってきており、うまくまとまらなくなってくるように思う。今まで以上に、優しさや親切心が少なくなってくると思う。その半面、高士地区は長い歴史があり、これは「好きなところ」に関連するのだが、高士小学校区の青少年育成協議会がある。これは他の地区にはないものであり、長い

歴史を持って活動している。そこを中心に各団体や人が集まって何かできるのではないかとの意見があった。

次に地区については、「自然災害が発生しない」「自然が豊か」という意見があった。地域住民が非常に穏やかで子どもたちも親切だという反面、何か主体性がないというか、流されがちになろうかと思う。この地区で人口減少を食い止めることはできないと思うが、その中で何か方策を探っていければよいと思う。よいものがあれば、行政がしっかりと出しているわけだが、それがなく悩んでいることが現状だと思う。

【青木会長】

それぞれの班より話し合いの内容について発表があった。各班の内容について、質疑の時間を取りたいと思う。

【塚田委員】

青少年育成会議の活動とは、具体的にどのようなものがあるのか。

【青木会長】

では雄志中学校区青少年育成会議のメンバーより補足願う。

【井澤委員】

主に中学生を地域に密着させるよう活動している。挨拶運動や太鼓・吹奏楽の演奏等で町内や地区のイベントに参加している。育成会議では、地区の催し物に参加するために計画を立てたり楽器を運んだりしている。中学校のPTA的な、「親父の会」といった感じで活動している。

【青木会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

1班の自分より2班へ質問である。

1班では、少子高齢化・過疎等、いろいろな面での原因として、「地域の魅力がないこと」との意見があった。会社がない、働き場所がない、区外に出ていかなければ食事をする場所がないことが原因として大きいとの意見があった。それが根本にあるとすれば、そこを何とかしていかなければどうしようもないと思っている。その中で出てきた意見が、昔あった商工会のように異業種を集め、高士で1つのグループができないかとの話が出た。2班でも今の段階で、具体的な対応策のような話が出たのであれば発表願う。

【松山委員】

青年会議所を立ち上げるということか。

【日向副会長】

商工会である。

【青木会長】

どうかたちになるのか具体的には分からないが、高士で商工会のような組織がないと、なかなか少子高齢化対策はできないと考えている。そのために、何かやれることはないかということである。

【松山委員】

異業種の人たちを集めるということか。

【青木会長】

例えばの話である。

【松山委員】

企業誘致ではないということか。

【日向副会長】

地元企業ということではないか。

【高橋副会長】

地元企業の方々の交流を深めることができれば、お互いに発展性のある意見が出るように思う。それを踏まえた人材確保ができれば若干なりとも、高士地区の先を見据えた中で、人口が増えていくのではないかと考えている。

【松山委員】

今まで高士地区にそれに類似したものはあったのか。

【青木会長】

あまり具体的なものはないと思う。

【松山委員】

例えば大工等の職人であれば、組合のようなものはあった。職人が集まれるような場である。

【青木会長】

今でもあると思う。

【高橋副会長】

いろいろな業種の人たちを集めた中で何かをするということである。

【日向副会長】

2班ではそういった具体的な話はなかった。

【青木会長】

今後の話になると思う。

【塚田委員】

昔、運動会の景品等を商工会かどこかで出していなかったか。あれはどのような会であったのか。

【松山委員】

地区内の店の人たちが出していた。あれが商工会だったと思うのだが。

【上野委員】

あれは商工会であったが、すでに解散した。平成15年からは、体育大会の景品は振興協議会と体育協会で補っていた。

【松山委員】

あれは店や会社をやっている人が景品を出していると思うのだが、そういうことか。

【塚田委員】

ここでいう「異業種」とは、そういうイメージのことか。

【上野委員】

そうである。

【青木会長】

本日の意見を踏まえ、正副会長と事務局で今後の進め方等を協議し、次回以降相談したいと思うのだが、何か意見等あるか。

【松山委員】

自分は、人口減少は食い止められるわけではないと思っている。高士区だけの話ではなく、世の中の流れである。そのため、そうなった時にどうするのかというと、組み替えるしかない。高士区を残すのか・残さないのか、といった話が当然出てくると思う。名をとるか、実をとるのかというような。小学校や保育園の統合といった話が多分、2・3年後に5・6年後の話として出てくると思っている。

【青木会長】

自分も前期4年間、地域協議会委員をしてきた中で少子高齢化・過疎化・空き家対策

等、いろいろな課題が出たのだが、これといった対策は出てこなかった。ただ時間が過ぎてしまったと思うため、非常に残念というか、致し方なかった気持ちである。それであれば、過疎化は進んでいるのだが、それはそれとして楽しくにぎやかな高士にするということを最初の取っかかりとしてもよいと思う。今回の地域活動支援事業には、頑張っている子どもたちやママさんたちからの提案があり、それも取っかかりになると思う。これを小さな火から大きな火にしていければとよいと思っている。すぐにできなくとも、任期は4年間あるため頑張っていければと思う。

【山崎主事】

先ほど青木会長も説明したように、本日出た意見を事務局でまとめ、今後どのように進めていきたいのかを改めて次回の地域協議会で協議したいと思っている。

【青木会長】

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「② 自主的審議について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。今ほどの事務局の説明にあったように、次回の協議会では自主的審議の今後の進め方について協議を行う予定である。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：11月20日（金） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・ 内容（案）：自主的審議について
その他、何かあるか。

【松山委員】

高士区地域協議会の委員の総意があれば、例えば市議会議員を講師として呼ぶことは可能か。

【本間センター長】

それは自主的審議とは関係なくということか。それとも、自主的審議のテーマを絞っていく中でということか。

【松山委員】

自主的審議のテーマを絞っていく中で、まとめりそうな話があった場合はどうか。

【本間センター長】

そういうことならよいと思う。ただ、議員に来てもらい話をしてもらうにしても、何を話すということが分からなければ、どういった議員を派遣してもらえばよいのか

も分からない。

【松山委員】

自主的審議の話が煮詰まればよいということか。

【本間センター長】

そうである。

【松山委員】

どのような流れとなるのか。

【本間センター長】

それは資料2の「手順2」の「調べる（聞く・見る）」に記載されている町内会長や地域の団体との意見交換や、市から情報提供を受けるといったところに関連してくると思う。今後、自主的審議のテーマを絞っていく中で、そういったことが必要であれば提案いただければと思う。

【山崎主事】

高士区地域協議会だよりについてである。前回は7月25日の広報と一緒に当初募集の採択結果と新委員の紹介としてたよりを発行した。今回、追加募集も採択が決定したためその採択結果と、あわせて第4回・第5回・第6回の地域協議会の活動紹介、昨年度の地域活動支援事業の紹介として、10月25日の広報と一緒に発行する予定である。全戸配布となっているため、発行後確認願う。

【高橋副会長】

- ・閉会の挨拶

【青木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。